

学校・家庭・地域が一体となって取り組む安心・安全な学校づくり

いすみ市立太東小学校長 押塚 尚

1 学校の規模及び地域環境

(1) 学校規模（平成24年5月1日現在）

児童数：216名

学級数：10学級

教職員数：21名

(2) 地域環境

いすみ市は、千葉県の房総半島東部に位置し、市内を夷隅川が蛇行して流れる穏やかな起伏の丘陵地であり、海岸線に向け平地が広がっている。千葉県の北東部の九十九里浜は太東崎にて終わるが、本校学区は、ここよりなだらかな丘陵地までの農村部・住宅地となっている。平地から海岸線にかけては河川やため池を利用した水田が広がるが、稲作と合わせて梨栽培も盛んである。太東地区は、県都千葉へもJRにて約1時間の通勤圏となっている。昨今は、別荘地としての人気も高まりつつあり、児童の転出・転入が年々増えつつある傾向にある。

校舎は、海拔7.9m、海岸から約2kmに位置し、近隣には校舎よりも高い建物は存在しないので、地震・津波等の防災に対する保護者の意識は高いものがある。

本校では、こうした地域の自然や伝統文化を生かしながら防災への子ども・保護者の意識を高めつつ、体験活動を重視し、生きる力の育成をめざした教育の実践を進めている。また、心豊かでたくましく生きる児童の育成をめざして、自らの思いを大切にしながら、生き生きと取り組む教育活動の展開を図ってきている。

2 取組のポイント

(1) 地域防災の必要に迫られた取組の実施

(2) 児童への災害対策指導の実施

(3) 地域住民との合同防災訓練の実施

3 取組の概要

実施時期	計画事項	参加者
平成18年度 8.19～ 8.20	P T A 親子 災害体験1	学校 地域住民 関係機関
平成19年度 12.1	P T A 親子 災害体験2	学校 地域住民 関係機関
平成20年度 8.20	P T A 親子 災害体験3	学校 地域住民 関係機関
平成21年度 第1回連絡会議 5.14	担当者会議①	学校地域住民 関係機関
第2回 8.6 9.6	担当者会議② 防災教育講演会	指導主事
第3回 10.27 11.28	担当者会議③ 合同防災訓練	学校・住民 ・保護者・
第4回 2.25	担当者会議④	各関係機関

4 モデル事業担当者連絡会

	氏名	所属及び役職
1	元吉正昭	東上総教育事務所指導主事
2	小高政喜	いすみ市役所総務部総務課
3	廻谷和子	いすみ市教育委員会学校教育課主査
4	高地孝至	太東小学校PTA会長
5	岩瀬俊一	太東小学校 校長
6	宍浦宏一	太東小学校 教頭
7	清水真澄	太東小学校 教諭
8	所 憲悟	太東小学校 安全教育担当

5 具体的な取組

(1) 平成18年度PTA親子災害体験訓練

実施日 平成18年8月19日(土)～

平成18年8月20日(日)

主催 いすみ市立太東小学校PTA

後援 いすみ市・いすみ市教育委員会

いすみ市消防団

協力 いすみ警察署・夷隅郡市広域消防

岬分署・いすみ市岬地区PTA連絡協議会

参加者 児童(全校児童の1/4が参加)

保護者・地域住民

(総勢141名が参加)

事業趣旨

阪神・淡路大地震(平成7年)や新潟県中越沖地震(平成17年)の発生や首都圏でも関東大震災の発生から80余年を経る昨今において、様々な方面での防災への積極的な取組が必要不可欠となっている。

地震による火災や家屋の倒壊といった被害が広範囲に及んだ場合、自治体をはじめ消防署や警察署といった公的機関だけではその対応は間に合うはずもなく、平素から備えが必要である。

特に、市町村においては各小・中学校がいざという時の「避難拠点」となることと、これまでの「地域は地域で守る」という教訓から、それぞれの地域における各小・中学校を中心とした「地域防災」を推進する必要がある。

いすみ市立太東小学校PTAではこうした考え方にに基づき、親子で参加する災害体験訓練を通じて地域における防災意識の向上を図りつつ、児童健全育成に結びつけることを目的としてこの事業を実施した。

平成18年4月、本校PTAが主体となつての地域ぐるみの防災活動を行うこととおして地域の防災意識の向上を図り、また、その活動を通じて子どもたちの健全育成に結びつけることを目的として「親子災害体験訓練」を開始した。

以上の意図を受けて太東小学校PTA役員本部事務局に事業本部を発足させた。

平成18年度の初年度は、児童と保護者を対象に参加者を募り、全校児童の4分の1の児童と保護者、地域住民の約150名が参加した。訓練は、避難所となる体育館に地震等の災害により停電・断水という想定で、一晩を過ごし、翌朝は非常食を作って食べるという体験を親子で行った。

～主な事業内容～

- ① 災害時における避難所生活の擬似体験
- ② 起震車による地震体験と煙体験車による避難訓練
- ③ 水消火器やバケツリレーの消火訓練
- ④ 救命救急法(心肺蘇生・三角巾)の講習
- ⑤ 消防車や高規格救急車の展示と説明
- ⑥ 防災啓発ビデオ等の上映

【地域防災】 特色ある取組実践校 ②いすみ市立太東小学校

⑦ 避難時の方角を知るための星座観察と講習



[バケツリレーによる消火訓練]

<災害体験訓練の感想>

- なかなか体験できない事を子どもと一緒に体験できた。いつ起こるかかわからない災害に役立てられる様に家族で話し合っていたい。
- 避難所体験、起震車や救急法など、親子共にすばらしい体験となった。災害の被害を少なくする方法や非常用品の再認識と心構えを家族で考える良いきっかけとなった。
- いずれ大地震など必ず起こると思うので日頃から備えておくことが大切だと思った。
- 起震車を初めて体験した。実際の地震だと周りにタンス等があるので、とても怖いと思った。

※ 夏休み期間中の開催のため全ての児童の参加とはならなかったが、地域住民の防災意識の向上に大変な効果が見られた。また、この訓練の報告書を関係団体に配布したところ、民間団体や近隣小学校から共同開催の申し入れもあった。

(2) 平成19年度太東小PTA親子災害体験訓練

実施日 平成19年12月1日(土)

主催 いすみ市立太東小学校PTA

共催 いすみ市立長者小学校PTA

後援 いすみ市・いすみ市教育委員会
いすみ市消防団

協力 いすみ警察署・夷隅郡市広域消防
岬分署・いすみ市岬地区PTA連
絡協議会

参加者 児童・保護者・消防署・警察署
消防団など 計151名

事業趣旨

日本各地で発生している地震災害について、「次の大地震はどこで発生するのか」という議論では、常に関東地方を含む太平洋沿岸地域という仮説が報じられている。

災害発生時での対応は、公的機関だけではやりきれない現実を理解し、平素からの備えの重要性を再認識することが必要である。各自治体でも「地域防災」への取組が活発化してはいるものの、まだまだ整備途上であり、いすみ市においても同様の現状である。そこで、本校PTAでは、「地域防災の推進」の重要性から「防災意識の向上」を図り、児童の健全育成に結びつけることを目的とし、近隣団体及び友好団体との連携による、「災害疑似体験」や「救命救急」を含めた事業を行った。

内容

- ① 起震車による地震疑似体験
- ② 煙ハウスによる避難訓練と説明
(2次的火災時想定)
- ③ 家庭用消火器による消火訓練と説明
- ④ 水消火器による消火訓練
- ⑤ 消防車や高規格救急車の展示と説明
- ⑥ 消防隊員服の試着と説明

⑦ 救急救命法（心肺蘇生法・AED）



〔心肺蘇生法体験〕

⑧ 津波に関するビデオ上映
（津波とは・避難方法等）

⑨ 防災関連クイズラリー

⑩ 炊き出し体験・非常食の試食



〔炊き出し体験〕



〔起震車体験〕

＜災害体験訓練の感想＞

○子どもと一緒に参加できたことが良かった。

○AED（自動体外式除細動器）は特に
ためになった。

○煙の中での行動は、本当に恐かった。

○地震の時の避難方法が分かった。

○家にいろいろな防災用品を準備をしよう
と思った。

○地震や津波、火災の恐さを再認識した。

○地震の恐怖を身をもって体験したので
「自分の身は自分で守る」ことを普段
から心がけたい。

※ 平成19年度は、隣接する長者小学校と
共同開催した。開催校2校を含めた岬地区
に所在する全4小学校のPTAが参加し
た。土曜日の開催となったが、児童や保護
者、地域住民計200名程が参加し、地元の
消防署、警察署、消防団の協力を得た。
煙体験テントによる避難訓練、バケツリレ
ーによる消火訓練などを体験し、地域住民
の防災意識の向上に大いに資することとな
った。

（3）平成21年度学校と地域の防災教育
モデル事業

目標

○児童の防災意識を高め、地震や津波等
の災害から自分の命を守る子どもを育
てる。

○保護者の防災意識を高め、地域の防災
能力の向上を図る。

取組の主な内容

①防災に関する講演会の実施

実施日 平成21年9月6日（日）

演題 「学校と地域における防災教育」

講師 危機管理研究所

危機管理アドバイザー

国崎信江 氏



〔防災教育講演会〕

内容

防災の知識と備えの両方が必要なこと、日頃から非常時のイメージトレーニングをしておくことが大切である。

②避難訓練、児童引き渡し訓練の実施

及び合同防災訓練等への参加

学校と家庭、地域等の連携を図る訓練

実施日 平成21年11月28日（土）

参加者 児童、保護者、地域住民

夷隅郡市広域消防岬分署

いすみ市消防団、いすみ市赤十字奉仕

団など計500名

③発達段階に合わせた防災教育の実施

◎防災教育に関わる学級活動の授業展開

1年生「地震時の身の守り方」

○クイズをしながら地震の時の身の守り方を学ぶ

〔身の守り方の学習〕



2年生「地震が起きたときに気を付けること」

○地震が起きたときに気を付けることを考える。

3年生「地震が起きたときの避難方法」

○場面ごとの避難方法について考える。

4年生「地震発生時に身を守る方法」

○自分の身を守る方法を知る。

5年生「非常時の持ち出し品リスト作り」

○非常時の持ち出し品リストを作る。

6年生「災害時に役立つ手作りランプ作り」

○安全、簡単、手づくりランプを作る。



〔手作りランプづくり〕

◎児童の活動

三角巾を使った救急法の体験、起震車体験、水消火器を使った消火体験、災害ビデオ視聴、引き渡し訓練の実施



〔救急救命体験〕

◎保護者と地域住民の活動

救急法講習・AEDの講習・土嚢作り・非常食作り・災害トイレの組み立て



〔土 嚢 作 り〕



〔災害トイレの組み立て〕

○防災教育講演会やいすみ市との合同防災訓練の開催など、児童・教職員・保護者を対象に、地域を取り込みながら多くの体験活動の機会を設定することができたので、児童はもちろん保護者や地域住民の防災意識の高揚に努めることができた。

○保護者・市役所職員・地域住民等と一緒に活動する機会が多く、学校・家庭地域の連携をより一層深めることができた。



〔引き渡し訓練〕

④児童や保護者等の意識調査の実施

地域や保護者児童の参加により、防災意識の高揚が見られた。

6 成果と今後の課題

(1) 成果

- 地域・関係機関・学校が同一歩調で防災に対する課題に取り組むことにより地域に開かれた安全・安心な学校づくりを推進することができた。
- 児童・保護者の実態に合わせた防災教育が各関係機関と連携を図りながら計画的に実施することができた。
- 防災教育に関する授業を通して、地震や災害の恐ろしさや避難方法をより具体的に学ぶことができた。

(2) 課題

- 津波の発生を想定した避難先の確保と避難所となった場合の食料や水等を含む備蓄品の予算化と保管場所の確保は学校だけでは取り組む事ができないので、さらなる関係機関等の連携を密に図る必要がある。
- 防災意識や災害時の対応を継続して学習するための安全教育年間指導計画を見直し、子どもたちの安全を確保したい。
- 保護者との災害対策連絡網を整備し、地域との連携を継続していく必要がある。